

第5章 モデル発展実践事業

- 1 芦別市における事業の概要
- 2 事業の実施概要
- 3 調査の方法
- 4 調査の結果
- 5 成果と課題

第5章 モデル発展実践事業

1 芦別市における事業の概要

(1) モデル発展実践事業実施の経緯

令和2年度(2020年度)と令和3年度(2021年度)の2年間、芦別市におけるモデル事業では、高校生にフォーカスを当て、高校生が地域の様々な課題を学び、解決に向けた取組を考えることを通じて、地域の担い手となることを目指すモデル事業を実施した。

しかしながら、コロナ禍において、当初の計画どおりに事業を展開することができず、高校生が企画したプロジェクトを地域住民に対して展開する機会を十分に得られないまま終了した。

こうした現状を踏まえ、芦別市教育委員会では、令和3年度(2021年度)に市の予算を確保し、令和4年度(2022年度)において、市の独自事業「芦別市地方創生塾」として活動を継続発展させながら展開することとなった。

本章では、令和3年度(2021年度)から令和4年度(2022年度)にかけて実施された芦別市における実践事業について紹介する。なお、資料の一部は芦別市教育委員会から提供していただいた。

(2) 実施目的

- ・地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップ等の実施を通して、地域活動やまちづくりに資する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。
- ・北海道芦別高等学校と連携し、「高校生が放課後に立ち寄れる場所や世代間交流ができる場所づくり」をテーマとした高校生カフェを実施する。

(3) 実施主体

芦別市教育委員会、北海道芦別高等学校

(4) 実践校の概要

実践事業の実践校である北海道芦別高等学校は、昭和16年(1941年)に設置が認可された北海道芦別高等女学校が前身。昭和23年(1948年)に男女共学となり、名称を北海道芦別高等学校(町立)に変更し、昭和25年(1950年)に道立に移管される。



炭鉱閉山による人口減少やそれに伴う高校の統廃合が行われ、現在設置されているのは普通科3クラスであり、卒業生の進路も多岐に渡っている。

生徒は、地元芦別市からの入学生が最も多く、近隣の赤平市、滝川市、歌志内市、年度によっては富良野市から通学する生徒もいる。

現在、芦別市内にある高等学校は「北海道芦別高等学校（普通科）」と「星槎国際高等学校芦別学習センター（通信制）」の2校のみである。

ア 生徒の概要（令和3年度（2021年度））

- ・生徒数：157名 1年 53名（男 27・女 26）、2年 51名（男 21・女 30）、3年 53名（男 31・女 22）
- ・出身中学校：芦別中学校 79名、啓成中学校 28名、赤平中学校 47名、その他 3名

イ 進学・就職の概要（令和2年度（2020年度））

- ・進学合格者数：計 47名（国公立大学 1名、私立大学 8名、私立短大 6名、看護学校 12名、専門・各種 20名）
- ・地域別就職状況：計 33名（全て道内）
- ・公務員合格者数：計 8名（国家公務員：3名、地方公務員 5名）

（5）事業の展開イメージ

実施された実践事業の展開イメージは図 5-1 のとおりである。高校生が企画するプロジェクト「高校生カフェ」を通して、地域に関する情報発信や世代間交流を促進し、地域の活性化に寄与する人材の育成を目指す。

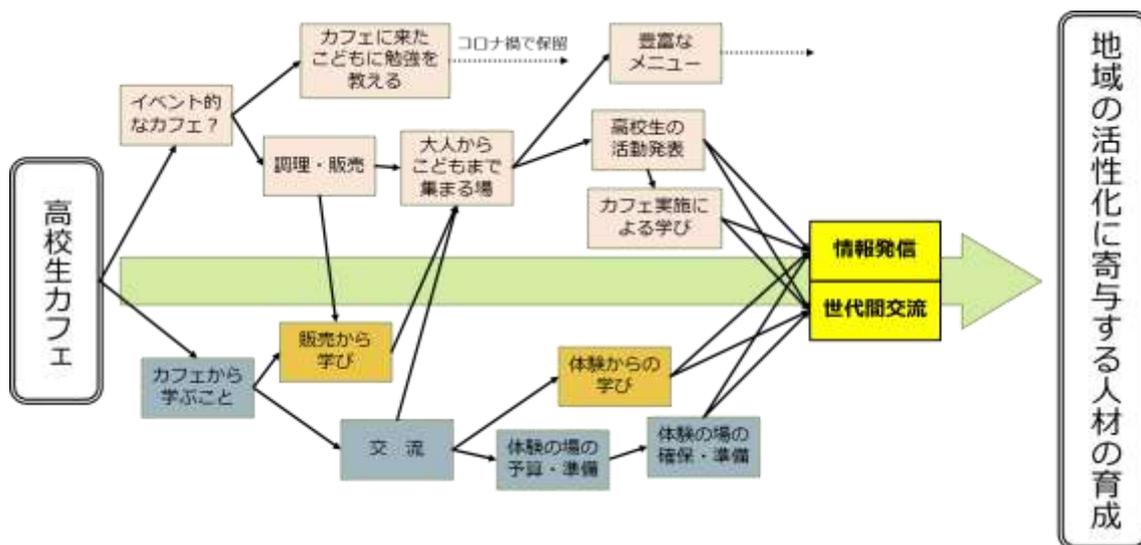


図 5-1 事業の展開イメージ

(6) 講師

本事業を実施する上で、塾生に対して指導してもらう講師を選定した。人選については、芦別高校の生徒の大半が、芦別市と赤平市から通学していることや、市外から来た人が地域を見ている新たな視点も取り入れることを重視し、元地域おこし協力隊で地域に残って活動をしている2人に塾長を依頼した。

また、令和3年度(2021年度)において、高校生が企画したプロジェクト「高校生カフェ」を道の駅の屋外で実施することを検討する中で、調理や販売等に対する助言のほか、保健所への申請・許可を得る必要があり、専門知識を持つ特別講師を依頼した。

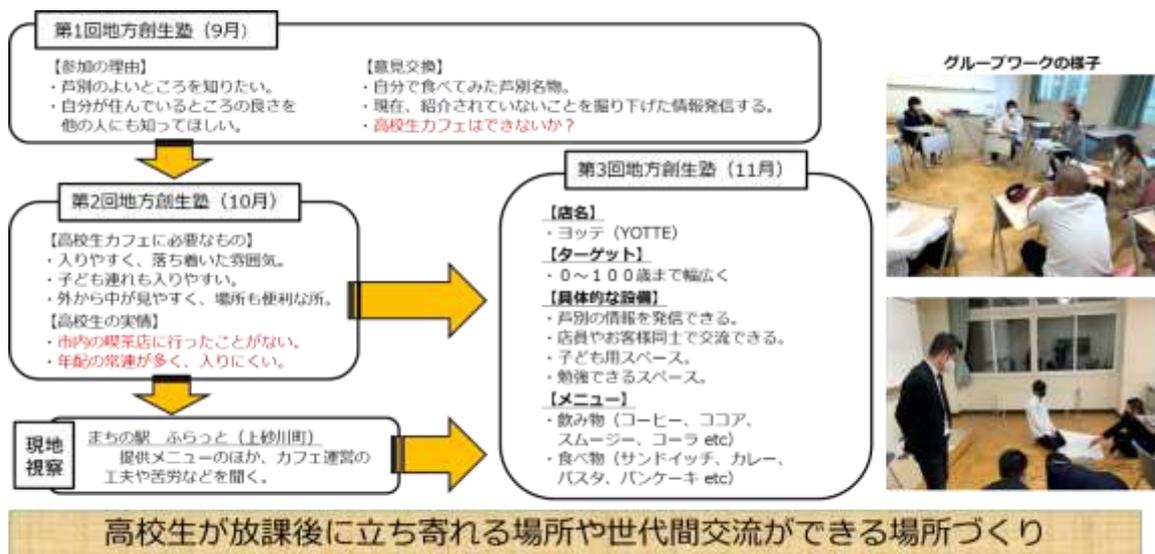
塾長	あしべつ未来の森協同組合常務理事 新村 充 氏 ・東京都渋谷区から芦別市に地域おこし協力隊として2016年に移住。 ・芦別市農林課林務係で山の管理や林業等の業務を覚えながら、狩猟免許も取得。任期後は市議会議員として活躍する傍ら、民泊の経営、林業従事者及びハンターとしてマルチに活動中。
塾長	Ka2 Design フリーデザイナー 大倉 加奈 氏 ・札幌市出身。「炭鉱まちに住みたい」と赤平市に地域おこし協力隊として2014年に移住。 ・現在はNPOなどの仕事を掛け持ちしながら空知を中心にデザイナー、ライターとして活動中。2020年には民泊系ゲストハウスを赤平市にオープン。
特別講師	秋田屋旅館 阿部 真久 氏 ・芦別市出身。道の駅レストランやスターライトホテルで料理人として勤務を経て、現在は市内で旅館を経営。 ・芦別青年会議所での活動経験もあり、単に商品開発・販売に留まらない助言や指導が期待できることから講師の依頼に至る(芦別高校OB)。

2 事業の実施概要

(1) 令和2年度(2020年度)

モデル発展実践事業を実施するに当たって、令和2年度(2020年度)に地方創生塾を3回実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、上半期に実施を予定していた取組は全て中止せざるを得なかった。取組が本格的にスタートしたのは、9月以降である。

実施した3回の活動内容の概要については、次のとおりである。詳しくは第4章で報告している。



（2）令和3年度（2021年度）

令和3年度（2021年度）の地方創生塾については、7回実施した。この年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画通りに事業を実施することができず、何度も延期や中止を余儀なくされた。参考までに、令和3年度（2021年度）に北海道が実施したコロナ対策をまとめた。

- ・ 新型コロナウイルス感染症集中対策期間（4/8～5/6）
- ・ まん延防止等重点措置（5/9～5/31）
- ・ 緊急事態宣言（6/1～6/20）
- ・ まん延防止等重点措置（6/21～7/11）
- ・ 夏の再拡大防止特別対策（7/12～8/13）
- ・ まん延防止等重点措置（8/14～8/25）
- ・ 緊急事態宣言（8/26～9/30）
- ・ 秋の再拡大防止特別対策（10/1～10/31）
- ・ まん延防止等重点措置（1/27～3/6）
- ・ まん延防止等重点措置（再延期～3/21）
- ・ 年度末、年度始めにおける「再拡大防止対策」（3/22～4/17）

このような危機的な状況の中、十分な感染症対策を講じながらプロジェクトの準備を進めた。高校生が考案したプロジェクトである高校生カフェの実現に向けて、メニューや取組内容についての協議、広報に必要なロゴマークやポスターなどのデザインの考案、提供メニューの試作やアンケート調査の実施など、1年目の取組の経験を活かしながら活動を進めた。

しかしながら、相次ぐ緊急事態宣言等により、計画したプロジェクトは中止となった。残念な結果とはなったが、市独自として翌年度も継続して事業を実施することが決まり、2月には、市長及び教育長に活動報告し、高校生のモチベーションは維持されることとなった。

第1回地方創生塾（7月1回目）

最初に、高校生の意向を確認から！

- ・令和3年度は「高校生カフェ」の実現に向けた活動を行いたい。
- ・年間スケジュールの確認
- ・メニューと実施場所（候補）を高校生に考えてきてもらう。

第2回地方創生塾（7月2回目）

- ・10月カフェ実施に向けて、場所を「道の駅」に決定。
- ・新型コロナウイルス感染症を考慮し、屋外で実施。



実施に向けた準備作業

- 会場となる「道の駅」の施設使用等の調整・協力依頼（芦別市商工観光課、芦別観光協会（道の駅管理者））
- 器材のレンタル及び物品の準備
- 市予算の確保（9月市議会に補正予算）

第3回地方創生塾（8月）

- ・高校生の役割分担について
 - デザイン・広報：ロゴ、チラシ・ポスターのデザイン等
 - 飲食関係：提供メニューの決定
 - 企画関係：単なるお祭りでは終わらない企画・アイデア

第4回地方創生塾（10月1回目）

- ・令和3年度のカフェ中止、令和4年度の実施に向けた活動
- ・次回以降、試作することを決定
- ・年間スケジュールの変更（関係者に限定した試作会、令和3年度活動の報告会など）

第5回地方創生塾（10月2回目）

- ・来年度に向けた試作（安全面に気を付けながら、まずは高校生のやりたいように）
- ・塾長以外の地域住民の協力
 - 調理等の指導（特別講師）：秋田屋旅館 阿部貞久 氏
 - 調理場所・器具の借用：建設企業組合 佐藤祐一 氏



第6回地方創生塾（11月）

- ・試作結果をもとに課題を整理→高校生にアンケート（船席の設定、トッピングなど）
- ・パンケーキの大きさや厚さなど完成品のイメージ作り

第7回地方創生塾（12月）

- ・前回の課題をもとに高校で2回目の試作
- ・販売をイメージしたトッピング、段取りの確認（売るといことは、安定した「味」「形や大きさ」が必要）

活動報告会（2月）

- ・市長及び教育長に令和3年度の活動内容を報告
- ・高校生の発表に対して、市長及び教育長からコメントをいただき、新村塾長・大倉塾長を含めて意見交換を実施した。

↓

【実施した意図】

- 高校生のモチベーション維持（令和3年度はカフェ本番無し）
- 高校生が市長・教育長と話し合う場を作ることで、少しでも意識を高めてもらう。

見た目重視で厚くすると焦げてしまうことも…



焦げを粉砂糖で隠す方法も考えた…（もちろん売れないので却下）



まちの話題

ASHIBETSU NEWS

芦高生が芦別市地方創生塾の活動報告を行いました



2月22日に市役所3階第1会議室で芦別高校の生徒5人が芦別市地方創生塾の活動報告を行いました。地域と関わることで、地元への思いを高め、地域の担い手となる人材を育てることを目的としています。令和2年度から2年間にわたり、新村充・大倉加奈両塾長と共に、グ

ループワークや校外活動を実施してきました。活動では、芦別のお土産ベスト5の調査や「高校生カフェ（高校生が放課後に立ち寄れる場所や世代間交流ができる場所づくり）」を企画し実現に向けての検討をしているとのこと。

『広報・星の降る里あしべつ 令和4（2022）年4月』に掲載された記事

(3) 令和4年度(2022年度)

令和4年度(2022年度)の地方創生塾については、新しいメンバーを加え、2回のプロジェクトの実施を含めて10月までに9回実施した。

前年度に実施できなかったプロジェクトを6月と10月に、道の駅で実施することができた。

第1回地方創生塾(4月)

- ・新メンバーを含めた顔合わせ
- ・令和4年度活動の確認と年間スケジュール作成

第2回地方創生塾(5月1回目)

- ・カフェのドリンク販売の指導・助言に地元で営業しているM's beans 芦別店に協力を依頼し、高校生の前で実演
- ・ドリンクメニューの検討(高校生が作るか含めて)

第3回地方創生塾(5月2回目)

- ・ドリンクとパンケーキに別れて試作を実施
- ・ポスターデザインの完成

第4回・第5回地方創生塾(6月)

- ・パンケーキの練習とトッピングの最終確認
- ・当日の役割分担等の確認



店舗で使用している道具で実演(コーヒーの勉強+店舗のPR)




ポスター(高校生案)




ア 高校生カフェ 第1回の概要

第1回高校生カフェを6月19日に、道の駅スタープラザ芦別の屋外の特設会場で実施した。当日までの活動の様子を芦別高校のホームページに掲載されたほか、市の広報誌や生徒が考案したポスターやチラシ等で周知された。

6月19日(日) 11:00~15:00
道の駅屋外スペースで高校生カフェ『ヨッテ』をOPEN!



市長をかたり絡めた後に購入いただきました 冷や汗...

実施結果

- ・イベントとしては大成功!
- ・M's beans 芦別店は過去最高売上を記録!

実施結果に対する反省と課題

- ・ストックが開店1時間で無くなり1時間待ちに...
- ・高校生からは、浮かれることなく、多くの反省と改善点が上がる
- ・まずは体験することを重視とはいえ、販売以外の内容検討が必要



芦別高校公式HPへようこそ

芦別高校は、空知川と緑に囲まれた豊かな自然環境の中にあります。前身は芦別実科高等学校で、昭和23年に芦別高校となりました。

創立以来17,000名を超える卒業生を輩出している伝統校です。

芦別NEWS & TOPICS >> 記事詳細 < 前の記事へ 次の記事へ >

2022/06/13 Mon 高校生カフェに向けた準備

[by admin]

6月13日(月)

6月19日(日)の道の駅スタープラザ芦別で実施予定の「高校生カフェ」に向けて、地域創生塾のメンバーが中心となり、放課後を利用して準備を行っています。



16/44



北海道芦別高等学校のホームページに活動の様子が掲載

高校生カフェ『ヨッテ』のポスター

イベント広場

食育展示の開催

6月の食育月間の取組として、食育に関する展示を市立図書館で開催します。食や健康に関する情報の展示、パンフレットの配布、関連図書の貸し出しを行います。お気軽にご来場ください。

◎期間/6月2日(木)~30日(木)の図書館開館日

◎時間/午前9時30分~午後6時

◎場所/市立図書館一般閲覧室、児童閲覧室

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、中止または延期になる場合は、市ホームページ等でお知らせします。

●問い合わせ/健康推進係 ☎27-7365

観光物産センター

◆売店からのお知らせ

◎6月は木曜日がお買い得

6月の毎週木曜日は1,000円以上お買い上げで10%割引します。(一部対象外商品あり)

●問い合わせ/観光物産センター ☎23-1437

(料理8品)

◎松コース/お一人様6,000円

(料理9品)

※送迎バスは市内のみ対応します。

※入浴料は別途かかります。

●問い合わせ/スターライトホテル ☎23-1155

星の降る里

百年記念館

◆道庁芦別支庁写真展を開催

◎期間/6月1日(水)~26日(日)

◎時間/午前9時~午後5時

※初日は午後1時から

◎観覧料/同展のみの観覧は無料

◎休館日/月曜日

※新型コロナウイルス感染拡大防止にご配慮のうえご来館ください。

◆小中学生向けワークショップ

「あしべつ石炭ものがたり」を開催

小中学生を対象とした、体験型ワークショップを行います。市内の炭鉱遺産の見学と、石炭アートに挑戦。

◎期間/6月25日(土)

◎時間/午前9時~正午(星の降る里百年記念館に午前9時までに集合)

◎人数/10人(先着順)

◎その他/少雨決行します。マスク着用と歩きやすい服装・靴、飲み物を持参してご参加ください。

●申込・問い合わせ/星の降る里百年記念館 ☎24-2121

※新型コロナウイルス感染拡大防止にご配慮のうえご参加ください。

高校生カフェを開催

芦別高校生が地方創生塾の活動の一環で高校生カフェ「ヨッテ」を1日限定出店します。地方創生塾とは、芦別高校と連携して地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域の活性化を目指す事業です。ぜひお越しください。

◎日時/6月19日(日)午前11時~午後3時

◎場所/道の駅スタープラザ芦別特設会場

◎メニュー/

特製パンケーキ、

各種ドリンク

◎その他/ドリンクはM's beans

芦別店の協力を得ています。

●問い合わせ/社会教育係

☎22-3110

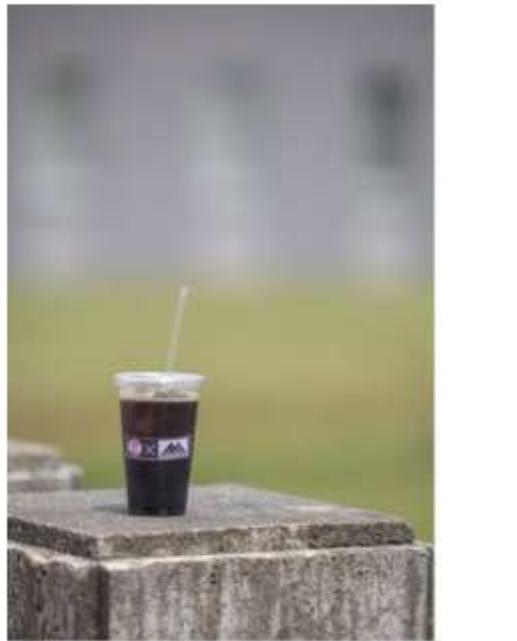


『広報・星の降る里あしべつ 令和4(2022)年6月』に掲載された記事

当日の天候は晴れ。気温が高かったため、冷たいアイスコーヒーの売れ行きがよかった。多くの市民が来店し、メインメニューであるパンケーキもすぐに完売した。

企画した生徒は、調理や接客など慣れない作業に困惑しながらも達成感を味わっていた。活動の様子は、次の写真のとおりである。また、当日の様子を各紙が報道した。





高校生カフェ『ヨッテ』（6月19日）の様子

イ 高校生カフェ「ヨッテ」第1回における購入者アンケート調査

カフェの会場で、商品の購入者を対象にアンケート調査を実施した。

調査方法は、パンケーキのパッケージにアンケート用QRコードを印刷したシールを貼り、スマホ等から回答していただくとともに、必要な人にはアンケート用紙を配付して実施した。

回答結果は、次のとおりである。

購入者数	回答者数	回答率
83	16	19.27%

1 お住まいはどちらですか

市内	市外
13	3

2 あなたの年代をお選びください

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上
2	1	4	3	5	1

3 今回、何を購入されましたか

コーヒー (Ashibetsu blend)	コーヒー (Bogen)	アイス コーヒー	アイスまろや かカフェオレ	オレンジ ジュース	チョコバナナ パンケーキ	フルーツ パンケーキ
0	0	2	1	0	6	6

4 購入されたものはいかがでしたか

とても おいしい	おいしい	ふつう	あまりおい しくない	おいしくな い
10	4	2	0	0

5 値段はどう思いましたか

とても 安い	安い	ふつう	少し高い	高い
4	5	6	1	0

6 次の項目のうち、高校生に期待したいものはありますか（複数回答）

項 目	人数
世代間交流（年代や年齢の違う人たちとの交流 など）	9
地域活性化（イベントの参加や開催による地域活性化 など）	9
人材育成（これからの時代を担う人たちの“学び” など）	9
地域への定住（Uターン、Iターンなど など）	6

7 事業評価

とても良い	まあまあ良い	ふつう	あまり良くない	良くない
14	1	0	1	0

理由：

- ・暑い中よく頑張っていたと思う。
- ・学生に学びと成長の機会の提供がされているように感じられた。
- ・飲食業を体験することで子供たちの将来の選択肢に繋がることはとても良い試みだと思った。カフェオレもパンケーキもとても美味しかった。
- ・コロナ禍であまり行事もなく過ごした高校生が、こういったイベントをやることで沢山の経験をし集客もあり、すばらしい企画だと思う。
- ・企画から当日の準備・運営まで、子ども達が考えて行動し、実施しているとしたらとても良い事業だと思う。
- ・大人がどの程度関与しているかわからないけど、大人の指示通りに集まって作って売ってという事業なら、評価は下がるかな。
- ・地域の活性化に繋がると思う。
- ・美味しいもの、大好きなんで??
- ・高校生たちのイキイキとした姿と地域の方々との関わりができるとても良い企画と思った。
- ・味もとてもいいし値段もいいが、何より高校生の対応がとても素晴らしく頑張ったんだな!と思った。またやるなら是非行きたいなと思った。
- ・芦別高校生皆さんの顔が輝いていた。
- ・芦別が少し元気になった。
- ・第二弾もあるといいですね。
- ・高校生も頑張っていてやり甲斐を感じた。
- ・芦別の町も賑わいになるので良いアイデアだと思う。
- ・とても活気があり、高校生が頑張っている姿を見ると、嬉しくなった。
- ・アイスコーヒーの他にパンケーキも2種類購入させていただいたが、どれもとても美味しかった。
- ・高校生のうちに社会に触れることはいいと思う。
- ・味は美味しいが接客を担当する時に「ありがとうございます」と声かけがあるとよい。あと、待ち時間が長いので前もってどれぐらい待つか教えたらいと思う。

8 高校生への主なメッセージ

① メニューに対して

- お疲れ様でした！美味しかったです。
- パンケーキ最高に美味しかったですよ。
- 美味しいコーヒーとパンケーキでした。
- またこのような機会があれば、是非購入させていただきたいと思います。

② 高校生の活動に対して

- 企画、準備等大変だったと思います。
- 暑い中、一生懸命作業している姿は、とても頼もしく思います。
- 挨拶や対応も元気にハキハキしていて、気持ち良く購入させていただきました。
- 今回を皮切りにいろんなことにチャレンジしてみてください。
- この販売、イベントを通じて更に勉強になった事と思います。
- 事業実施にあたり、思い通りいった面やいかなかった面など色々あったと思いますが、事業をやり遂げたことは素晴らしく、頭が下がります。
- 爽やかに対応して頂いてこちらも楽しい気持ちになりました。この経験を忘れずにいて欲しいと願います。
- これに満足することなく、芦高生が放課後に立ち寄れる場所ができるように、更に高みを目指して下さい。
- 全て100点です！味も値段も接客もとても素晴らしかったです！ヨッテにヨッテみて良かったと思いました！
- お互いコミュニケーションをとりながら、テキパキとした様子も素敵でした。
- あっという間に高校生活は終わってしまうので、いろいろな経験をして、それぞれの未来に繋げていってくださいね。
- 皆さん方の明るい未来を応援しています。
- 色んなことに興味をもって、色んなことに挑戦をして自分の可能性を広げていってください。その経験は必ず皆さんの力になります。挑戦することは怖いかもしれませんが、一歩踏み出したら「あれ？なんでこんなにビビってたのかな？なんてことないじゃん！」と思うことの方が多いものです。その「なんてことないじゃん！」という経験も沢山してほしいなと思います。失敗したって次に同じ失敗をしないように何が悪かったのかを考えて対策をとれば何も問題はないんです。そうしていくことで強く成長していけると思います。みなさんが最高の人生を送るために、心の片隅でもいいので挑戦の意義というものを思い出して下さい。

③ 地域の活性化に向けて

- 長いコロナ禍での自粛が明け始め、賑わいを取り戻しつつある芦別の姿に、大変な喜びを感じました。これも高校生の皆さんのお陰です、誠にありがとうございました。
- 芦別のためにありがとうございました。

- 第6回地方創生塾（7月）**
 - ・第1回高校生カフェの振り返り
 - ・当初のテーマである「世代間交流」「情報発信」について各グループで話し合い
- 第7回地方創生塾（10月1回目）**
 - ・第2回高校生カフェに向けた準備
 - ・当日会場で発表用動画の視聴し、感想と改善点を
↓
 - ・ただ同じ内容で販売だけでも、当初のテーマから遠のく高校生が自分達で探し、特産品のPR動画を作成
※高校生の目線で発表する（情報発信）
- 第8回地方創生塾（10月2回目）**
 - ・ドリンクメニューの再確認
M's beans 戸別店の開店…
全てのドリンクを高校生は自分達でやりたい！
→対応しやすさからフレンチプレス式でやってみよう！
 - ・前回の反省をもとに、当日の役割分担を最終確認



高校生による第1回のふりかえり



実際に道具を使って練習

フレンチプレス式は、直接フィルターにお湯を注がないため、技術的な差がでにくい
メリット：技術的な差が少ない
デメリット：微粉（コーヒーの粉）が残る
※器具で抽出後、フィルターで濾す方法もあり、ほぼ微粉の心配は無いが、多少濁く感じる

ウ 高校生カフェ 第2回の概要

第2回高校生カフェを10月22日に、道の駅スタープラザ芦別の屋外の特設会場で実施した。6月に実施した第1回カフェの経験を踏まえ、スムーズに運営された。

また、高校生の活動発表として、グループで市の特産品を紹介する動画を作成し、商品の待ち時間を活用して来場者に見ていただいた。市の特産品を紹介する2～3分のショート動画で、さくらんぼジャム、モカ大福、ガタタンラーメン、はちみつをPRした。

さらに、過去2年間の活動内容を展示物にして掲示するとともに、テレビモニターを設置して、活動の様子を撮影した写真をスライドショーで見られるようにした。

10月22日（土）10：00～14：00、道の駅屋外スペースで2回目の高校生カフェ『ヨッテ』をOPEN！



今回も大盛況！



大人達で開店前の雑用中！
地域おこし協力隊の方にも開店準備やアンケート回収も協力いただきました！



高校生が活動内容を発表

実施結果

- ・高校生から元気をもたらえる！と高評価
- ・アンケート結果も事業継続の希望が多数あり

実施結果に対する反省と課題

- ・今回も1時間待ちの行列を作ってしまった
- ・全体としては前回よりもスムーズだったが、自分のことで精一杯？





第2回高校生カフェ『ヨッテ』のポスター

プレス空知 令和4年10月12日



プレス空知 令和4年10月





エ 高校生カフェ「ヨッテ」第2回のふりかえり

1 販売結果

・収入 55,100 円 - 支出 41,596 円 = 13,504 円

2 アンケート結果 n=33

カフェの会場で、商品の購入者を対象にアンケート調査を実施した。

調査方法は、第1回と同様、パンケーキのパッケージにアンケート用QRコードを印刷したシールを貼り、スマホ等から回答していただくとともに、必要な人にはアンケート用紙を配付して実施した。回答結果は、次のとおりである。

購入者数	回答者数	回答率
64	33	51.6%

項目	良い/あり/した	普通/なし/わからない	悪い/していない
高校生の活動発表の感想は良かったか	29	2	0
高校生カフェの感想は良かったか	30	2	0
高校生にやってほしい企画はあるか	18	9	-
前回と比べ成長しているか	9	21	0
味に問題はあったか (すでに食べた方のみ)	8	0	0

- ・メニューを追加してほしい、飲食スペースがほしい
- ・高校生が頑張っている姿に好感が持てた

3 集客効果

- ・例年、10月の道の駅の入込数は右肩下がりだが、10月の4週目で増加しているのは、「高校生カフェ」による可能性が高い。

	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目
入込数	3,052人	2,870人	2,291人	2,757人	1,725人

4 成果

・販売結果

高校生カフェは、営利目的ではないため、売上の金額は問題ではないが、飲食店が同じ結果だとしたら時給240円の計算となる。

・アンケート結果

回答結果の大半が好評価（回答率51.6%）であった。ただし、「高校生にやってほしい企画はあるか」の質問に対し、「なし」が9件あり、さらなる期待は薄い可能性がある。

・集客効果

一定の集客効果の可能性があったと思われる。

（4）事業の成果

本事業に参加した学校にとっては、これまで地域と連携したいという願いはあっても地域とのつながりが薄かったが、本事業を通して地域と連携した取組とすることができた。

行政にとっては、町立の小中学校とは連携することはあっても、道立高校との連携は少なく、今回の事業を通して、地域活性化に寄与する人材の育成や地元の高校を支援することができた。

講師として関わった塾長の2人にとっては、学校や高校生との接点が少ない中、「地元を知ってもらいたい」「地元を好きになってもらいたい」「高校生と何かしらの活動をしたい」という思いの実現につながる事業となったことは大きな成果である。

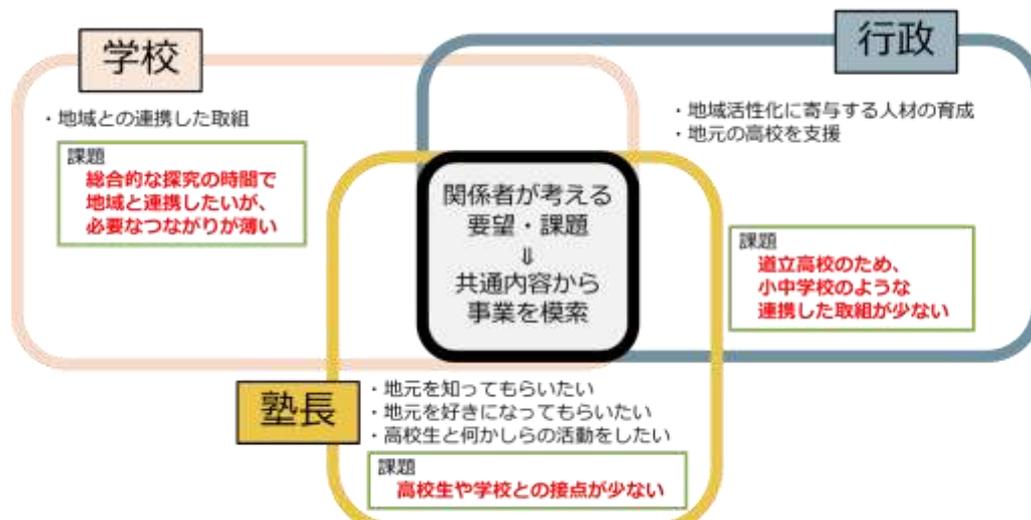


図 5-2 関係者が考える要望・課題

3 調査の方法

(1) 調査対象者

令和3年度(2021年度)と令和4年度(2022年度)の事業に参加した芦別高校の生徒を対象にアンケート調査を実施した。

また、高校の担当教諭と市の教育委員会担当職員に対して、事業実施後、記述式のアンケート調査を実施した。

(2) 能力の測定

調査方法として、森口ら(2008)が作成した「ヒューマンコミュニティ創成マインド(以下、HC創成マインドとする。)評価尺度改訂版」を用いた。

※森口竜平・日潟淳子・小山田祐太・齋藤誠一・城 仁士「ヒューマンコミュニティ創成マインド評価尺度改訂版の開発」神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要3、2008年

HC創成マインドは、他の大学や他の研究領域の研究者、あるいは地域・NPO・行政・企業と協働することができる資質として「コミュニケーション能力(4項目)」「ネゴシエーション(交渉)能力(5項目)」「プランニング(企画立案)能力(6項目)」「マネジメント能力(7項目)」「リーダーシップ能力(5項目)」の5つの因子によって構成されている(表5-1)。

これらの項目は、本事業のねらいである「高校生が地域の様々な課題を学び、解決に向けた取組を考えることを通じて、地域の担い手となることを目指す」内容と共通するものも多く、高校生の能力を測定する上で適切であると判断した。

HC創成マインドに関する項目は、「よく当てはまる(4点)」から「まったく当てはまらない(1点)」までの4件法で実施した。

(3) 調査時期・方法

調査は、事業開始時と終了時に、学校で調査用紙を配布し、全て記名式にて回答を求めた。

(4) 集計・分析

「HC創成マインド」の得点として27項目の合計値を4件法で算出し、5つの上位能力の得点についても能力ごとに合計値を算出し、各調査時期における平均値を算出した。

HC創成マインド(得点27~108点)の各因子の得点範囲は、リーダーシップ能力が5点から20点、マネジメント能力が7点から28点、プランニング能力が6点から24点、ネゴシエーション能力が5点から20点、コミュニケーション能力が4点から16点である。

表5-1 ヒューマンコミュニティ創成マインドを構成する5因子27項目

構成因子	項目
リーダーシップ能力	集団で行動するときに先頭に立ってみんなを引っ張っていくことができる
	メンバーに対して的確な指示が出せる
	自分が行動を起こすことによって、周りの人を動かすことができる
	私は初対面の人でも気軽に話すことができる
	自分の意見を相手に伝えることができる
マネジメント能力	相手の話を積極的に聴く姿勢をとることができる
	メンバーに対して、受容的、肯定的な態度をとるよう心掛けている
	周囲の人や物事との関係を理解できる
	メンバーの失敗に対して責任を持つことができる
	自分の置かれた環境・状況をよく理解している
	周りの人々の役割と自分の関係をよく認識している
	自分に課せられた役割や使命をしっかりと自覚している
プランニング能力	何かに取り組む際に、先を見通して計画を立てることができる
	取り組むべき課題を明確に分析している
	さまざまな情報源から情報を集め、それを活用することができる
	数多くの情報の中から、本当に自分に必要な情報を吟味し、手に入れることができる
	仕事をするとき、順序立てて何をどうやって取り組んでいけばよいかを決めることができる
	目標達成の手段・方法を考え確実に進めていくことができる
ネゴシエーション能力	相手と自分の意見が食い違った場合、相互に有益な妥当点を見出せる
	相手の要求を考えて、自分の提案を修正できる
	相手と自分の意見が異なっても、話し合いを重ねる中で意見の折り合いをつけることができる
	交渉相手の感情を逆なでせずに、合意の達することができる
	相手の要求が自分の意図に反しても、平常心で柔軟に対応できる
コミュニケーション能力	論理的に自分の考えを述べ、相手を納得させることができる
	相手が納得できるように話すことができる
	相手の質問に対して的確に答えることができる
	自分のことを理解してもらえるように話すことができる

4 調査の結果

調査時期である「事前」と「事後」の平均値を比較した。その結果、参加した高校生の「HC 創成マインド」を構成するリーダーシップ能力とプランニング能力、マネジメント能力において平均値に変容が見られた（図 5-3、図 5-4）。

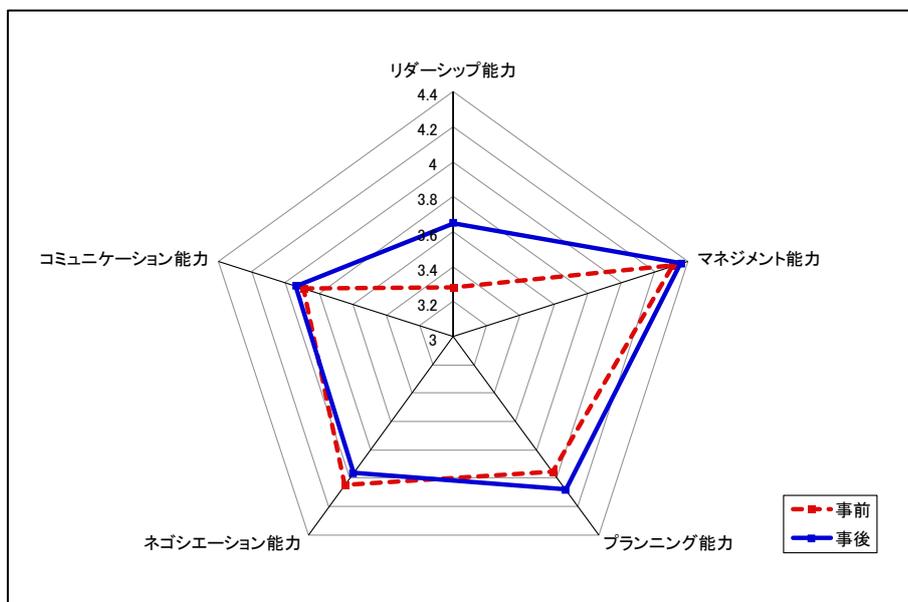


図 5-3 令和3年度（2021年度）におけるヒューマンコミュニティ創成マインド尺度得点の変化 (n=12)

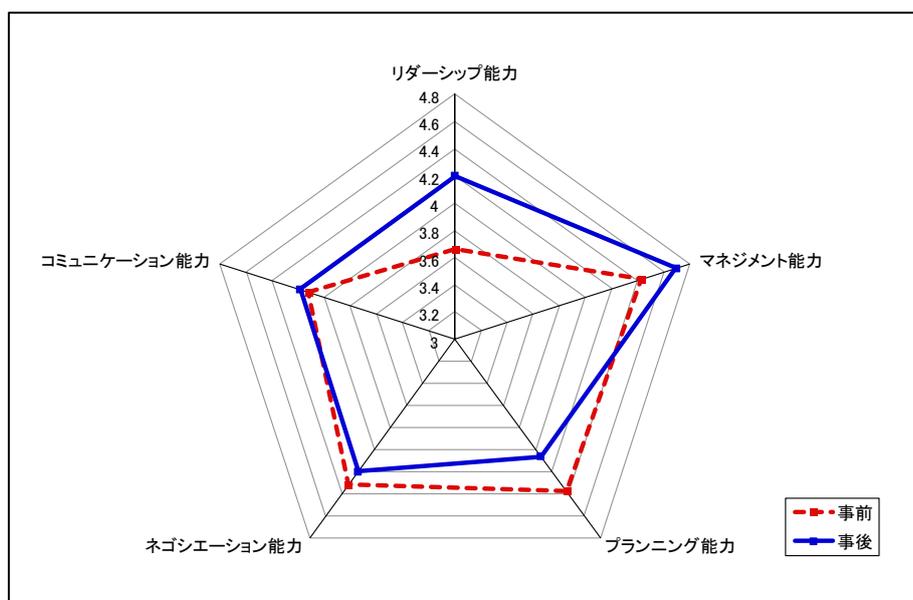


図 5-4 令和4年度（2022年度）におけるヒューマンコミュニティ創成マインド尺度得点の変化 (n=10)

(1) リーダーシップ能力

リーダーシップ能力は、仲間との信頼関係を築けることを土台としており、メンバー相互の信頼感が重要になる。

本事業では、参加した高校生が、仲間と協力しながらカフェを企画する上で、役割を分担しながらグループごとに話し合いをしたり、事前の準備をしたりする場面が多くあった。各グループのリーダーについては、メンバーに対して的確な指示を出すことや先頭に立って周囲を引っ張っていくことが求められる。

また、カフェ当日は、客への対応として、仲間と協力しながらカフェを運営する場面が多くあり、特に、客との対応では、初対面の人とも話せる能力や自分の意見を相手に伝える能力が求められる。これらの経験が、参加した高校生のリーダーシップ能力を高める要因になったと考えられる。

(2) プランニング能力

プランニング能力は、情報を集め、課題を明確にし、その課題を克服するために計画を立てる能力である。

本事業では、高校生自らが仲間と話し合いながらプロジェクトを企画するという設定で、地域の実情やニーズの把握から、テーマの設定、そして事業に関わる人との方向性を共有するなど、仲間と協力しながらプロジェクトに必要な準備を行う必要があり、先を見通して計画を立てることや順序立てて何をどうやって取り組んでいけばよいかを決めること、また、目標達成の手段・方法を考え確実に進めていく能力が求められる。このような経験が、高校生のプランニング能力を高める要因になったと推察する。

しかしながら、令和4年度（2022年度）調査では、数値が下がっている。これは、前年度に企画したテーマや内容を継続して実施したことから、事業の主な内容が、プランニングよりも運営方法等に移行したことが要因と考えられる。

(3) ネゴシエーション能力とコミュニケーション能力

今回の事業では、ネゴシエーション能力とコミュニケーション能力については、事前と事後で大きな変化は見られなかった。

外部などの関係機関との交渉や調整等については、高校生ではなく、教育委員会職員や高校の教員など大人が役割を担っていたことから、高校生が他者とコミュニケーションを図りながら業務を遂行する場面がほとんどなかったからと考えられる。

(4) マネジメント能力

マネジメント能力は、状況及び時間を把握して管理し、それらを調整しながら再統括する能力である。

令和3年度（2021年度）調査ではほとんど変容は見られなかったが、令和4年度（2022年度）調査では、事前よりも事後の方が上回っている。これは、プロジェクトを実施する上で、高校生自らがカフェを企画したり、運営したりする機会があったためと推察する。

（5）担当者の感想

ア 高校の担当教諭のコメント

3年前に「地域創生塾」の協力の依頼があり、現在の3年生の学年から、「探究活動グループ」を募り、6名のメンバーでスタート。地元講師2名に指導いただきながら、芦別市や赤平市の「いいところ」を講演してもらい、探究の授業のグループワークを通し、ブレインストーミングなどをし、データを収集し、高校生が芦別市に何を求めているかを探った。①学校帰りにくつろげる店がほしい。②世代間交流をしたい。③芦別のいいところを情報発信したい。という意見がまとまり、「高校生カフェ」をつくり、その場所としたい。というのが1年目の活動の企画案として提案された。

2年目は、2年生6名、1年生7名の13名で、「高校生カフェ」の実現を目指す1年だったが、コロナ禍のため実現されなかった。しかし、準備に十分時間をかけることが出来たので、メニューを決定。値段を決定。パンケーキの試作を繰り返した。また、時間があつた分、ロゴの作成。ポスターの作成に時間をかけることが出来た。

3年目は、2年生の探究ゼミ活動のメンバー14名を中心に、3年生に手伝ってもらいながら、6月19日の出店に間に合わせるように準備を進めた。

授業に、芦別市教委の方、講師2名、Ms コーヒーの方、秋田屋旅館の方などに来ていただいて、パンケーキの調理の指導やハンドドリップコーヒーのいれかたなどを指導いただいて、開店に備えた。生徒同士で話し合う時間よりも、出店のために、調理の技術を上げる時間が多くなってしまったが、様々な分野の社会人と触れあうことで、実感しながら学ぶことは多かったようだ。

空知プレスに出店まで2回記事を掲載していただき、授業での生徒の活動がこのように注目されていることに嬉しく感じた。

当日は、食材やテントなどの資材は芦別市教委で準備していただいて、9時から生徒13名とテント張りから準備し、久しぶりにお祭りをしているような楽しさがあった。

10時から調理の準備を始める予定が30分調理開始が遅れた分、開店時のストックが少なく、すぐ30分待ちの状態になってしまった。

注文をいただいてから、調理して箱詰め、提供という流れがスムーズに行くまで1時間ぐらいかかったが、初めてチャレンジすることなので、お客さんは温かい目で見えてくれていて生徒は大いに助けられた。

不慣れな生徒達ではあったが、開店中、元気よく各担当をこなしていた。

途中、休む時間を生徒一人15分程度しかつくれなかったが、15時の閉店時間まで元気よくやれたことに、よく頑張ったと感じた。後片付けもみんなで協力して無事終わることが出来た。最後に記念撮影をした時の生徒の充実感にあふれた笑顔が印象的だった。

生徒の感想を聞くと、接客や品物の提供までの改善点が多かった。担当教員としては、当初の「世代間交流」「情報発信」という部分を、今後生徒の課題として探求していきたい。

イ 市教育委員会の担当職員のコメント

令和4年度から市の独自事業となり、また、芦別高校2年生の「総合的な探求の時間」に設けられたゼミの1つである「地方創生ゼミ」において、芦別市地方創生塾として実施しているが、塾長を中心に進めつつ「高校生の意見を中心とした取組」や「大人が教えすぎない」を関係者の共通認識としている。

本年（2022年）6月、第1回目の高校生カフェを実施したが、販売そのものが目的ではなく、販売を通して地域の住民等と交流を図りながら、企画から販売まで体験し、反省や改善点を考える機会として実施したところである。

今回、第2回目の高校生カフェでは、高校生が考えた反省や改善点を実践できる場として実施したが、結果的にも高校生が自主的に動く場面が増えたように見受けられた。今までの高校生の印象として、ただ言われて行動しても実感に乏しいが、自らの責任と裁量において行動することに多様な発見があったものと伺えた。

芦別高校とは来年度以降も継続していく見通しとなっているが、現在の1年生が対象の予定であること、計2回の高校生カフェでは想像以上に集客があったことから、屋内で開催した場合に対応が可能か、当初のテーマである「世代間交流」や「情報発信」をどのように実施していくかなど、塾長及び学校等の関係者と改めて協議する必要があると思われる。

5 成果と課題

(1) 成果

本事業の成果として、次の3点が挙げられる。

第1に、本調査研究の結果から、実施したモデル実践事業について、高校生のリーダーシップ能力をはじめ、プランニング能力、マネジメント能力が向上するという可能性が示唆された。これらの能力は、本事業がねらいとしている能力でもあり、本実践に一定の教育効果があることが明らかになった。但し、本事業は1年間という長期にわたる取組でもあり、その間、参加した高校生は、日常生活において、本事業以外の様々な活動にも参加されており、一概に本事業による成果と判断することはできないため、あくまでも参考値に止める必要がある。

第2に、令和2年度（2020年度）に道立生涯学習推進センターの事業としてスタートした本事業によって、事業実施の推進体制が構築され、芦別市の予算の確保により、市独自の事業として継続実施したことである。予算活用の際には、社会教育振興費として補正予算（財源充当）で対応することとなり、令和4年度（2022年度）は、「芦別市地方創生塾」として実施することができた。

今後も、市教育委員会が、高校と連携しながら、事業を継続実施することは、大きな成果に値する。

第3に、コロナ禍において、事業の開催方法を工夫しながら高校生が発案したプロジェクトを実現できたことである。令和3年度においては、コロナ禍により、高校生が企画した「高校生カフェ」を屋内で実施することにはリスクが高いことから、密になりやすい屋内ではなく、屋外での実施を候補として検討し、結果的に道の駅の屋外での開催を実現することができた。

(2) 課題

今後の課題は、参加者である高校生に対する教育効果だけでなく、事業の実施目的の一つである地域活性化の効果という側面から活動内容を評価することである。高校生が企画したプロジェクトが、地域の実情やニーズに合った取組内容なのか、地域の課題解決に効果をもたらすプロセスや手段なのか等を検証する必要がある。

また、調査方法の在り方について検討する必要がある。今回は、コロナ禍において活動に制限がある時期が続き、事業が計画通りに進まず、活動がスタートしてからアンケート調査を実施したため、事前と事後の変容にあまり大きな差が見られなかった。正確なデータを収集するためには、アンケート調査を事業の実施前に実施する必要がある。

さらに、量的な調査だけではなく、生徒の感想など質的な調査も併せて分析する必要がある。本事業は複数回開催されたが、その全ての回に参加した生徒は多くない上、生徒会等の活動を兼務している人も少なくなく、それらの活動内容によって、生徒が身に付ける能力やスキルは左右されるであろう。学校の生徒を対象にした長期にわたる活動を実施する場合、調査方法について工夫が必要と考える。